幾多の困難に打ち勝った記念

　熊本県錦町の開拓は、県南部に位置し、標高150～200ｍの台地にある。

　日本三大急流の一つである球磨川が東西に流れており、朝晩の寒暖差が大きく、よく霧が発生する。

　46年に80戸が入植し、当初は寺の御堂に分宿していた。国有林の伐採に従事したが、集材したものが山火事に遭い、賃金をもらえないこともあった。

49年には大干ばつで、陸稲は全滅。51年にはでサトイモやスイカ等も全滅。その他、２年連続の台風災害で、住宅の全半壊35戸と、非常に多くの困難に立ち向かわなければならなかった。

土質は酸性の火山灰土で、稲作には向いておらず、サトイモや甘藷の栽培が行われるようになった。

　50年から茶苗の植栽を始めたが、55年頃から茶の価格が低迷したため、茶樹を抜いてしまい、60年に再び茶苗を植栽するなど、一進一退の営農が続いた。今は緑の茶畑が広がっている。

　65年頃からモモ、メロンなど果樹の産地形成ができた。また、69年には高原開拓農協の敷地に、熊本県開拓農協連球磨支所と倉庫が開設された。

70年頃から一部の農家が開拓牛肥育に取り組むようになった。

　74年に球磨地域の開拓農協が合併し、球磨開拓農協が発足した。

　85年、農協敷地内に入植40周年の開拓記念碑が建てられた。当時の思いが伝わるよう、大きく堂々とした碑となっている。

現在も、広大な茶畑が広がり、肉牛肥育農家も頑張っている。

高原（たかんばる）　　４３-５０１-２

①調査日 平成29年５月23日

②所在 球磨郡錦町大字木上東

③地区の沿革 檜、松の国有林に昭和21年80戸が入植した。

④設置年月日 昭和60年12月１日

⑤設置者 入植者

⑥碑文（表面） 開拓碑

錦町長　松田 栄 書

　大東亜戦争終結により、国の定めた緊急開拓法に基づいてこの地に入植、開拓事業に参加、山野を開墾、開畑して現在の地区形成をなし遂げた。この偉業を入植四十周年に当り開拓碑を建立し、後世に伝えるものである。

入植 昭和二十一年八月十五日

　　　開拓面積　一六〇ヘクタール

　昭和六十年一二月一日建立

⑦碑文（裏面） 昭和二十一年八月入植

⑧現在の状況 県道324号線沿いの当地区内で管理されている。